

小学校第 3 学年 道徳学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 21 日(金) 2 校時
指導者 教育センター所員 山崎 秀隆

- 1 主題名 せいいっぱい生きる【内容項目 D－(18) 生命の尊さ】
- 2 教材名 命あるかぎり生きる（私たちの道徳 小学校 3・4 年 p.94）
- 3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

一つの命は単独で「生きている」のではなく、それを支える多くの命によって「生かされている」といえる。自分の命が「生かされている」ことに気付くことができれば、周りの命も大切にしたいという思いをもつことができ、それが自分の命を「生かす」ことにもつながっていくと考える。「精一杯生きる」とは、自分の命を「精一杯生かす」こととつながっているといえる。「精一杯生きる」ために、自分のやりたいことやできることに取り組むことだけではなく、自分の周りの多くの命を生かすためにできることにも取り組もうとする態度を育むことは、大変意義深いことである。

○児童の実態について

本学級の児童は、4 月に行った道徳的価値の意識調査における「命が一番大事なものであることが分かり、いつも大切にしている」という質問に対し、76%が「よくできている」、24%が「だいたいできている」と答えている。その理由として、「命はたった一つしかないから」「命がないと生きられない」「事故に遭わないようにしている」という記述があり、命の大切さを感じていることが分かる。また、「みんなと一緒に生きたい」「家族や友達と会えなくなるから」「みんなが悲しむ」という記述もあり、周りの命との関わりについて考えている児童もおり、このような思いを大切に育んでいきたい。

○教材の活用について

本教材は、平成 10 年 6 月 28 日に 5 年半に及ぶ病気とのたたかひの末、11 歳という若さでこの世を去ってしまった宮越由貴奈さんが、小学 4 年生の時に院内学級の授業で感じたことを書いた詩と院内学級でのエピソードである。

「命」という詩では、「私は命が疲れたと言うまでせいいっぱい生きよう」という死の不安に負けない強い決意が述べられている。

院内学級でのエピソードには、自分が重い病気であるにも関わらず、赤ちゃんや友達のためを思って行動する姿が描かれている。その行動に込められた由貴奈さんの気持ちに触れることで、周りの人のためにも精一杯生きようとする強い気持ちを感じることができる。

由貴奈さん自身もいつまで生きられるか分からない状況の中、自分のことよりも周りの人のために行動する姿から「せいいっぱい生きよう」という言葉にこめられた思いを考えさせたい。また由貴奈さんの生き方から「精一杯生きる」とはどのように生きていくことなのか自分なりに考えさせるといふ視点で資料を活用したい。

○指導の重点について

導入では、「せいいっぱい生きる」とはどのように生きることか考え、ワークシートに記入させる。その後、ネームプレートを黒板に貼る位置で今の自分がどのくらい精一杯生きているかを表し、主題に関わる自己の考えを見つめさせる。ここで、「今より精一杯生きていくために自分にできることを見つけよう」というめあてを示し、授業の中で考えていくべきことを明確にする。展開では、小学 4 年生の時に書いた「命」の詩を紹介し、不安な気持ちよりも今ある命を精一杯生かしていこうとする強い気持ちに触れさせることで、「せいいっぱい生きよう」と述べている由貴奈さんの思いを受け止めさせたい。次に、由貴奈さんの院内学級での行動の裏に隠された気持ちを推し量ることで、由貴奈さんが思う「精一杯生きる」ことの意味についてグループや全体で考えを広げ、深めていきたい。さらに、「精一杯生きる」ために今の自分にできることを考えさせ、主題に関わる自分自身の気持ちの変化を確かめさせたい。終末では、人生の大先輩である日比野さんのメッセージを聴くことで、自分にできることを実践していこうとする気持ちを高めさせたい。

4 ねらい

由貴奈さんの生き方に込められた思いを感じ、周りの人のために今生きている自分にできることをしていこうとする態度を育てる。

5 指導の視点

「指導と評価の一体化を図る授業展開の工夫」について

- ・資料提示の仕方や発問構成、グループ及び全体の話し合いの場の設定は、由貴奈さんの思いを感じるために有効であったか。
- ・ネームプレートやめあての掲示、書く活動の設定、終末の手立ては、主題に関わるこれからの自己の生き方を考えるために有効であったか。

6 展開

	学 習 活 動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 期待される児童の変化(教師の願い)
導 入 ／ 展 開 ／ 終 末	1 「せいいっぱい生きる」ことについて考える。 【書く活動①】	○「せいいっぱい生きる」ためにはどんなことをすればよいと思いますか。 ・自分にできることをする。 ・何でも一生懸命取り組む。 ・勉強や運動をがんばる。	・出された意見を踏まえ、今の自分は精一杯生きているかどうか考え、ネームプレートを黒板に貼らせる。 ・宮越由貴奈さんの詩を読む前に、院内学級のことやプロフィールについて簡単に説明する。
	今より「せいいっぱい生きる」ために自分にできることを見つけよう		
	2 由貴奈さんの詩やエピソードを読み話し合う。 【話し合い】 グループ ↓ 全体	○由貴奈さんがこの詩で伝えたかったのはどんなことだと思いますか。 ・命は取り替えられない。 ・命を無駄にしてほしくない。 ・精一杯生きたい。 ○由貴奈さんはどんな気持ちで行動していたと思いますか。 ・周りを明るくしたい。 ・周りのお世話をしたい。 ・周りの人を悲しませたくない。 ・周りの人を楽しませたい。	・「命」の詩を紹介し、詩にこめられた由貴奈さんの「命」に対する思いを考えさせる。 ・前向きな気持ちだけでなく死に対する不安な気持ちもあったことを押さえる。 ・由貴奈さんの院内学級でのエピソードを紹介し、行動の裏に隠れていた気持ちを想像させる。 自分だけでなく周りの人のためにも生きていこうとする由貴奈さんの思いを感じている。 ・由貴奈さんは亡くなってしまったことを伝えることで、今生きている自分たちにできることは何か考えさせるきっかけとする。
	3 「せいいっぱい生きる」ためにできることについて考える。 【書く活動②】	○今より「せいいっぱい生きる」ためにできることを書きましょう。 ・友達に優しくする。 ・家族を悲しませない。 ・周りの人を大切にする。 ・周りの人が喜ぶことをする。	・「せいいっぱい生きる」ためにできることをワークシートに記述させ、できることが見つかった児童はネームプレートを裏返して黒板に貼り直させる。 今後の生活の中で具体的にどのような行動していきたいか記述することができ、自分の気持ちの変化を確かめている。
	4 「たすけ合って生きる」の範読を聴く。	○日野原重明さんの「たすけ合って生きる」を聴いてください。	・日野原さんのメッセージに込められた思いを感じることで、日々の実践への気持ちを高めさせる。